

いきいき



松前町立北伊予小学校
学校通信 第 409 号
令和7年7月14日

自然の家 思い出五七五

ぼくの思い出は、三つです。ウォークラリーで班のみんなと協力してゴールして、とてもうれしかったこと、カヌーでだんだん操作が上手になって楽しく乗れたこと、全ての食事がおいしくて満足したことです。こんな経験できたのも、所員の方、友達、家族、先生方のおかげだと思います。生活の中で恩返ししたいです。 5 年 1 組	私の思い出は二つあります。一つ目はカヌーです。初めてだったので不安だったけどうまく乗れて楽しかったです。二つ目は、キャンプファイヤーです。火を囲みながら、みんなで歌ったり踊ったりして最高の気分でした。火の神様に、ともしていただいた大切な六つの火を忘れずに、これからも成長していきたいです。 5 年 1 組
私は、「協力、挑戦、友情」を目標にして2日間過ごしました。そこで、「自分のことは、自分でやる」ということをがんばりました。ウォークラリーやカヌーは、自然とふれ合いながら、班の友達と協力して活動できました。自然の家で学んだことをこれからの生活に生かすことができたらいいいと思います。 5 年 2 組	特に楽しかったのはカヌーです。最初は難しそうだったけれど、だんだん慣れてきて上手になれたのでうれしかったです。奥の木までこいでいくと鳥の巣も見ることができてよかったです。キャンプファイヤーでは、火の神から「希望、努力、友情、協力、奉仕、真心」の六つの火をもらったので大切にしていきたいです。 5 年 2 組

「人権・同和教育」について

人権・同和教育主任

部落差別問題について考える時、「寝た子を起こすな」という意見が必ず出てきます。本当にそれでこの問題は解決していくのでしょうか。

平成28年に「部落差別解消推進法」が出されました。平成・令和の時代になっても、まだ日本には部落差別が残っているということです。身の回りの日常生活の中では、見えにくくなっていますが、結婚や引っ越し、就職といった場面では顕在化し、問題になります。ネット上には、誤った情報、差別を助長する悪意ある情報もあります。確かに、この問題に全く関わることなく生涯を終える人も多いかもしれません。だからといって、学校で正しい同和教育を受けずに大きくなった子どもたちが、誤った情報を鵜呑みにしてしまい、差別者にならないともかぎりません。また、将来この差別に苦しむ友達から相談を受けるかもしれません。人権・同和教育では、「正しく知る」「正しく理解する」そして、「正しく判断し、行動すること」が大切です。もちろん、差別される側の立場に立ち自分事として考え、差別に対する憤りや差別を許さない心も養っていかなくてはなりません。小学校では、6年生の社会科の歴史学習で、初めて「同和问题（部落差別問題）」の記述が出てきます。5年生までの人権学習は、差別を見抜き、差別を許さない心を養い、6年生の同和问题学習につながるよう進められています。3学期の人権・同和教育参観日には、6年生で同和问题を取り上げた参観授業を公開します。小学校でどんな学習に取り組んでいるのか、6年生にお子さんがいない保護者の皆さんもぜひ6年生の教室をのぞいてみてください。ネット上に誤った情報がある限り、この学習に終わりはありません。大人になると学習する機会がありませんが、保護者の皆さんも、私たち教職員も子どもたちに正しい生き方を示せるように、機会を捉えて学び続けましょう。